

【小論文】

次の新聞記事を読んだうえで、「中学校の校則」について、400字以内で、あなたの見解を述べなさい。

X中学校で、生徒が主体となって見直した校則が10月から運用されている。禁止されていたジャンパーの着用を認めたり、衣替えの時期を自由にしたりするなど、明確な理由がない校則を改めた。学校側も、生徒の自主性を育むという教育的な面での効果を期待している。

今月7日午後、下校時間に生徒らは教室前のラックに掛けていたジャンパーを取って着用した。以前の校則では、登下校時にコートを着ることができたが、ジャンパーは認められていなかった。禁止している理由が不明なため、今回の見直しによって着用が認められた。ジャンパーを着て通学した3年生のAさん(15)は「去年の登下校中はとても寒かったけれど、校則が変わって暖かく通学できている」と話す。同校によると、変更する前の校則では、衣替えの期間が決まっていたり、膝掛けや整髪料の使用が禁止されていたりしていた。

校則を見直すきっかけとなったのは、生徒指導を行う際の手引書「生徒指導提要」を文部科学省が2022年に改定したことだった。同省は、校則を学校のホームページなどで公開し、必要な規則かどうかを見直すように促した。「文部科学省も校則の見直しを後押ししている今がチャンスだ。」校則に不合理な部分があると感じていた校長(61)は見直しを決めた。同校では昨年、生徒会が主体となって5日間、私服で登校する試み「カジュアルウィーク」を行っており、見直しも生徒会でできると判断した。校長は今年6月、前期生徒会長で3年生のB君(15)に、校則の変更を提案。B君は「この大きな仕事をやり遂げよう」と意気込んだ。B君は副会長のAさんと2人で、全校生徒に説明する内容の打ち合わせを開始。それと同時に、生徒会や各学年の学級委員長などで構成する校則検討委員会もつくった。まずは、検討委員会で意見の集約方法などを決めた。7月には、各クラスで校則の意義について考えたり、見直しが必要な内容を話し合ったりした。検討委員会は各クラスで出た意見をまとめ、案として担当教員に報告。その中には、「体操着のシャツはズボンから出してもよい」や「制汗剤は無臭のもののみ許可」などがあつた。その後、教員らが提出された案を精査。不必要と判断した案を除き、体操服の着方やジャンパーなどの上着の保管方法について、再び検討委員会で話し合うように指示した。検討委員会は、上着はハンガーを持参し、ラックに掛けて保管することや、体操着のシャツ出しは、気温などの条件付きで認めることとし、再び教員に提出。校長や教員らで確認し、10月10日、校長が校則案を承認し、同月16日から新校則が運用された。Aさんは「意見をまとめるのが難しかったけれど、うまくお互いを納得させて、校則ができたので良かった。」と話し、B君は「みんながジャンパーを着て登校する姿を見ると、校則を変えて良かったと実感する。」と笑顔を見せた。

校則の見直しは都内各地で進んでいる。Y中学校は、昨年度に生徒会が主体となって検討を始め、今年4月に新たな校則が運用された。靴下やワイシャツの中に着る肌着は白色だけが認められていたが、黒や紺も着用可能にするなどの変更を行った。

区立学校の校則見直しに関する手引を2021年に作成したのは東京都Z区教育委員会。児童や生徒が校則の意義を考える機会をつくるために学級活動などで話し合うことなどを記載している。同区教育委員会によると、同区内の小中学校35校全てで見直しが行われているという。

<出典> 読売新聞 2023年12月26日朝刊
※ ただし、文章の一部に改変等を行っている。